



# 心ひとつに

美郷中学校  
学校報 NO.11  
R4. 6. 3

## 創立10周年記念式典・講演会

1日（水）、本校体育館で「創立10周年記念式典・講演会」が行われました。町長さんを始め、30名を超えるご来賓の皆さんにご来校いただき、希望される保護者の方に参列いただくなど、新型コロナウイルス感染症の拡大以前に近い形で式典を実施できたことをうれしく思っています。これから行われる学校行事等も、コロナ禍以前の姿に徐々に近づけることができる環境であってほしいと願っているところです。



○記念式典で、校長からは…

・人から「美郷中学校の伝統は何ですか？」と聞かれた時に、どう答えるのか？一人一人、胸を張って後輩に伝えていきたいことを考えながら、これからの学校生活をさらに充実させてほしい。

○町長さんからは…

・なぜ、10周年という節目があるのか。美郷中学校の10年間という時間はどのような変化をもたらして、どういう意味があるのか。画一的な答えはないと思う。さらに、皆さんが10周年という節目に立ち会うということはどういう意味をもつのかを考えてほしい。



・伝統とは何かを併せて考え、節目に立ち会った際に考えたことを記憶にとどめ、これからいろいろな節目に立ち会う時に考えるきっかけにしてほしい。

○PTA会長さんからは…

・「いのちの理由」というさだまさしさんの歌がある。歌詞は「私が生まれてきた訳は（略）」  
・お母さんとけんかをしているとか、口をきいていない人がもしあれば、生まれてきた時のあなたに対するお母さんの気持ちに思いをはせてもらえれば、少しは優しく接することができるのではないか。  
・私たちはみんな、幸せになるために生まれてきた。幸せになるために生きている。幸せには一人一人のイメージがある。その幸せのために、今やるべき事をして、一歩でも二歩でも近付くと考えれば、前向きに生きていけるのではない



か。

○生徒会長からは…

・今年度の生徒会テーマには、これまで築き上げてきた土台を大切にしつつ、さらに広げたり、強固なものにしたりすることで、美郷中をよりよい学校にしようという思いを込めている。この10年を土台に開校時の先輩たちのように挑戦し続けていこうという決意も表している。



・今、新たな節目を迎え、生徒一人一人の声を生かした学校づくりに取り組んでいる。また、先輩たちが「地域に愛される学校」づくりを目指してきたことで、今の私たちは「地域に支えられている学校」の一員であるという実感をもつことができている。今後も、美郷ラブプロジェクト、毎年取り組んでいる福祉施設への貢献活動など、自分たちの感謝の気持ちを表現する活動を続けていく。

○記念講演では〇〇〇〇さんが「学び続ける豊かな人生を！」と題して…

・ストレスには、「やる気スイッチ」のような、よいストレスもある。  
・フォアキャスティング思想とバックキャスティング思想があり、大谷選手の「オープンウインド（OW）64」はバックキャスティング思想に近いものである。



・私は中・高校時代は野球だらけの生活を送っていて、挫折や引きこもりを経験した。近所の会社の社長さんに経営者の集まりに誘われ、そこで「今の俺かっこ悪い」と気付いた。33歳で社長に就任し、ひたすら経済経営を勉強し「学び」「考え」「行動する」日々の繰り返しだった。

・経営資源（財産）として、①人、②モノ、③カネ、④情報、⑤時間、⑥知的財産が大切であり、学校生活を送る生徒の皆さんにとって大切なものと共通していると思う。

・秋田県が企業誘致をしているという話を聞いて、県内10数カ所を見て回ったが、美郷町（当時の千畑町）の風景等を見て、この地を選んだ。美郷町を選んだ理由には、「若い人達と働ける」「時間のゆとりがある」「ほどよい人口密度」「災害が少ない」「パニックが起きない安全安心な町」「地方で稼ぎ、時々都会で遊ぶ」などがある。

…次号へ続く

〇〇〇〇さん（東京生まれ）

・斉藤光学製作所の前社長、現在は監査役

・(有)コーケン、(有)サイテックの取締役社長